

# コミュニケーションの成立条件と信頼

## 東電福島第一原発事故後の状況診断

---

原子力被災者等との健康についての  
コミュニケーションにかかる有識者懇談会

2012年8月9日  
影浦 峯

# お話しすること

---

- コミュニケーション
- 信頼とコミュニケーションの現状
- コミュニケーションの成立条件を再構築する

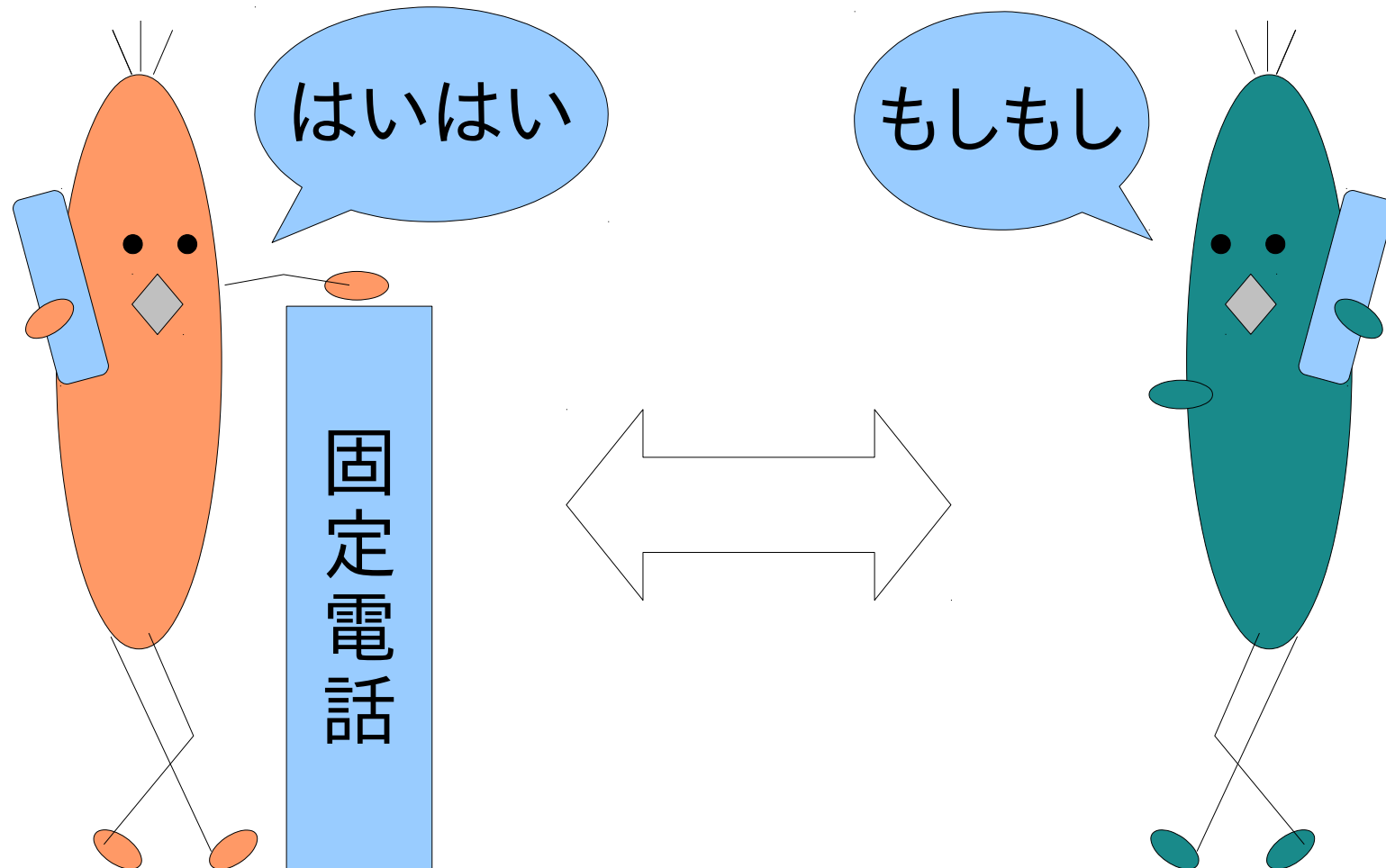
# コミュニケーション

---

- コミュニケーションは
  - 情報やメッセージの伝達（シャノンみたいな）
  - 他人の説得（俗流心理学でその技術が扱われる）（だけ）ではない。
- コミュニケーションは
  - 「相互作用」
    - これが現状でとても大切なポイント
    - でも「相互作用」って？

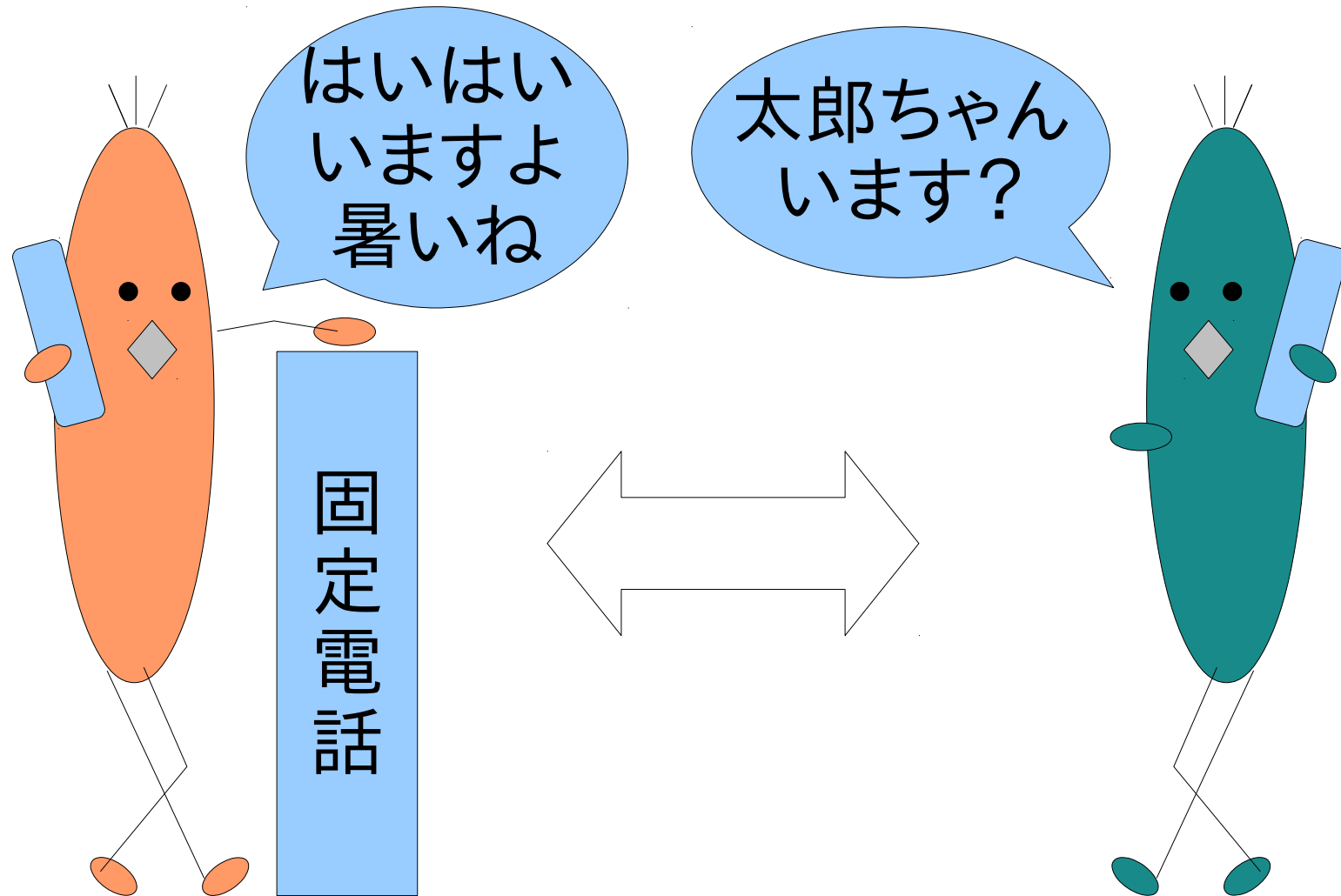
# 相互作用としてのコミュニケーション

---



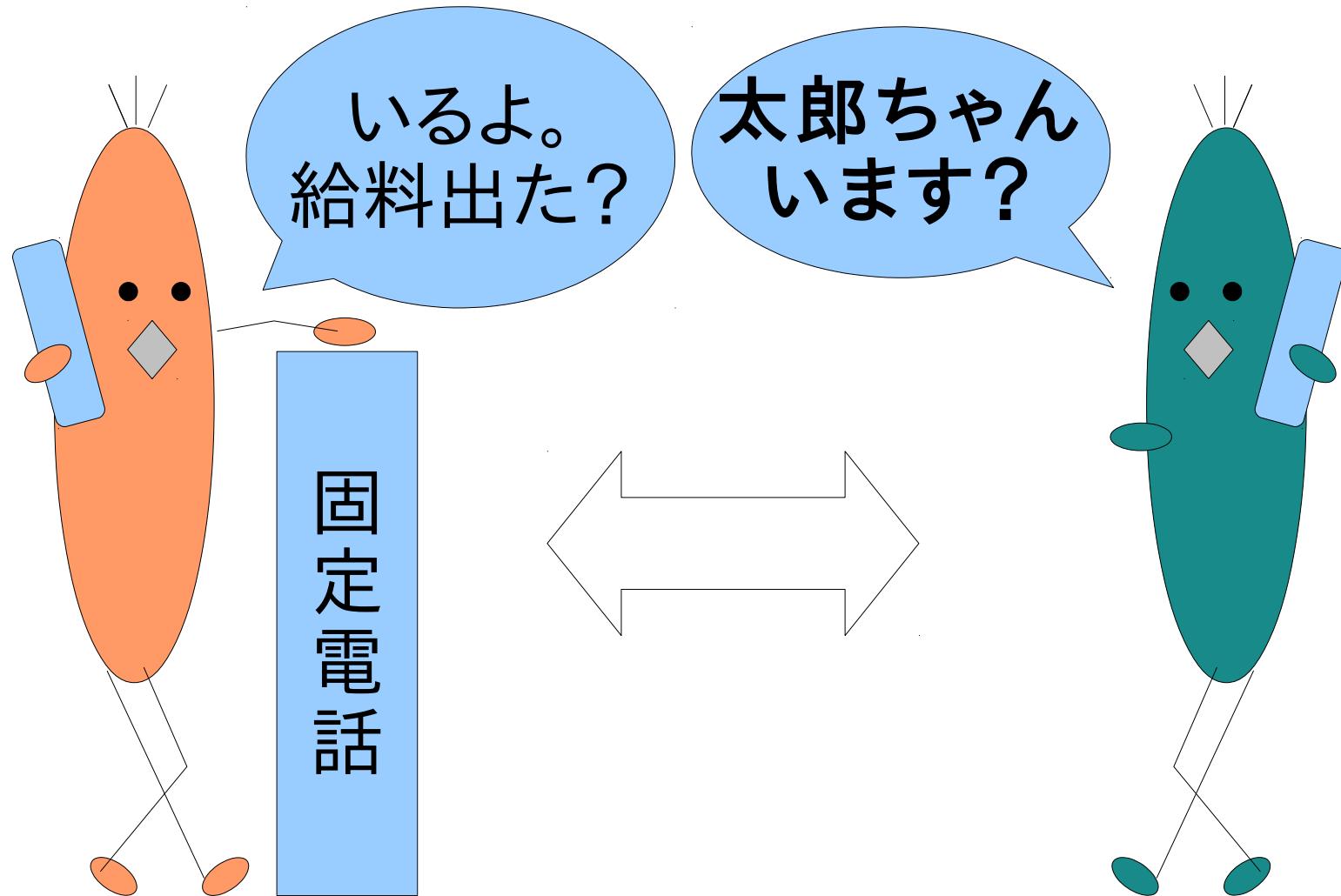
# 相互作用としてのコミュニケーション

---



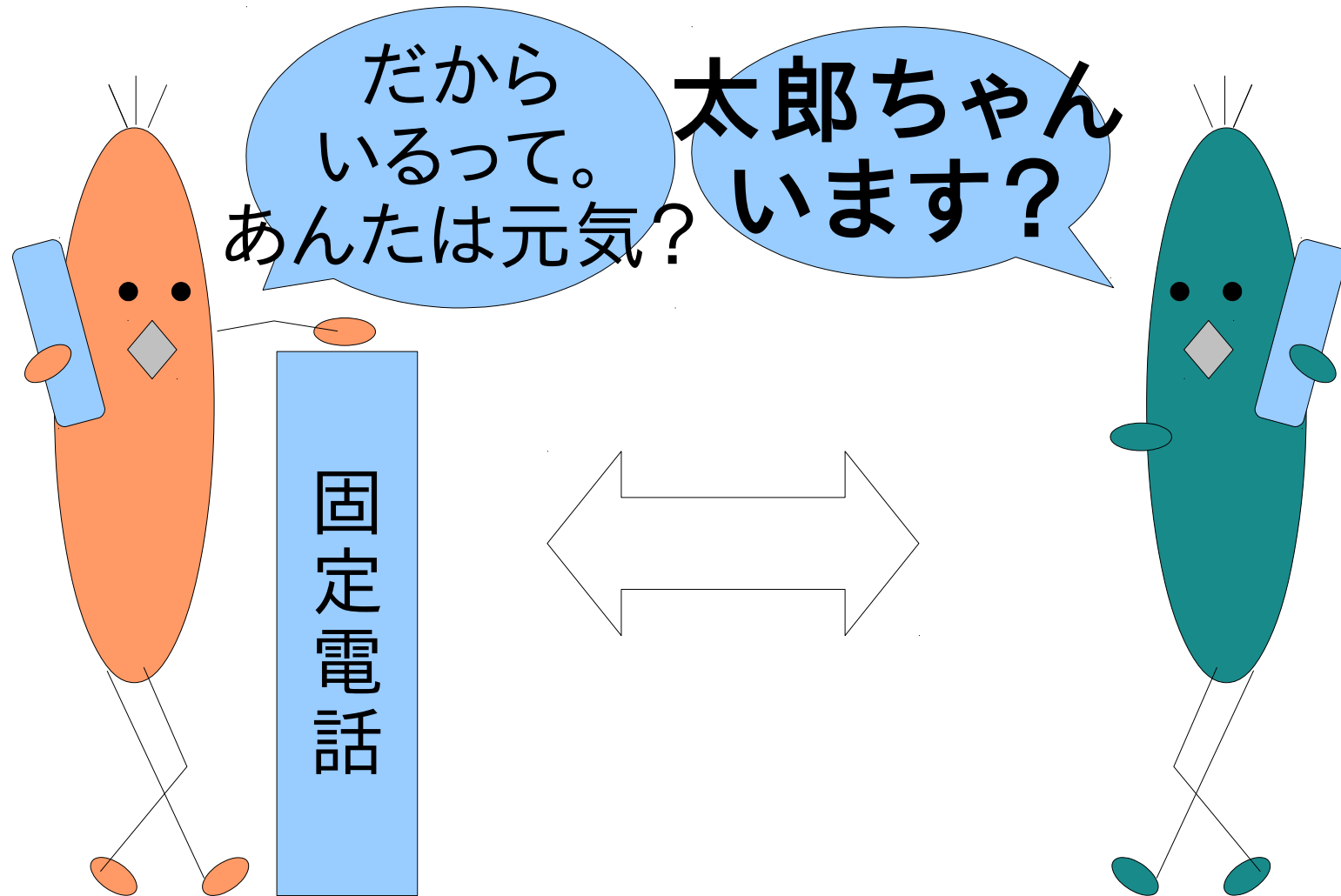
# 相互作用としてのコミュニケーション

---



# 相互作用としてのコミュニケーション

---



# 相互作用としてのコミュニケーション

---

- 相互作用としてのコミュニケーションは
  - 単なる相互の言葉のやりとりではない
  - 参加者の配置や参加者を取り囲む環境の具体的な配置を変えること



# 相互作用としてのコミュニケーション

---

- コミュニケーションを成立させるために
  - 参加者の配置や参加者を取り囲む環境の具体的な配置を変え(ておか)なくてはならないことも多い

「まず……………しろよ。すべての話はそれからだ。」

# コミュニケーションの参加者

---

- 「原子力被災者等との」
  - 「被災者等」はあくまで個々の人
  - 一人一人が、他の誰も代われない当事者

ちょっと関連：

「すべて国民は、個人として尊重される」(憲法第13条)

「経験によれば、『平均的個人』を使うことは、汚染地域における被ばくの管理にとって適切でないことが示されている」(ICRP Publ.111 para 16)

# コミュニケーション

---

参加者の配置や参加者を取り囲む環境の具体的な配置を変えることを帰結する

参加者の配置や参加者を取り囲む環境の具体的な配置を変えることを前提とする

コミュニケーションに参加する「原子力被災者等」は、他の誰も代わることができない一人一人

# お話しすること

---

- コミュニケーション
- 信頼とコミュニケーションの現状
- コミュニケーションの成立条件を再構築する

2011年3月12日(13日朝刊)

東京新聞

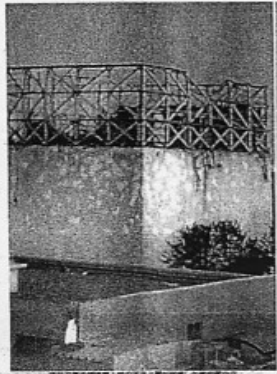
# 福島原発で爆発 初の炉心溶融

# 宮城1万人安否不明

## 東日本大震災

国内観測史上最大  
死者不明1,400

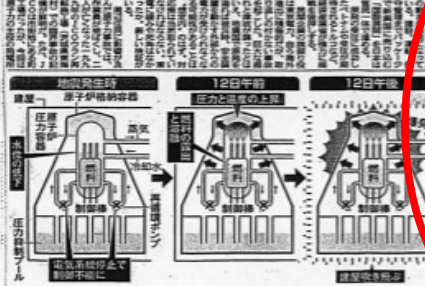
22  
福島第一原発  
午後3時半ごろ



福島第一原発で爆発  
4人がケガ

# 病院の3人被ばく

# 避難指示半径20キロに拡大



## 信頼、一気に失う 厳しい検証必要

死者は687人

五香の  
心茶

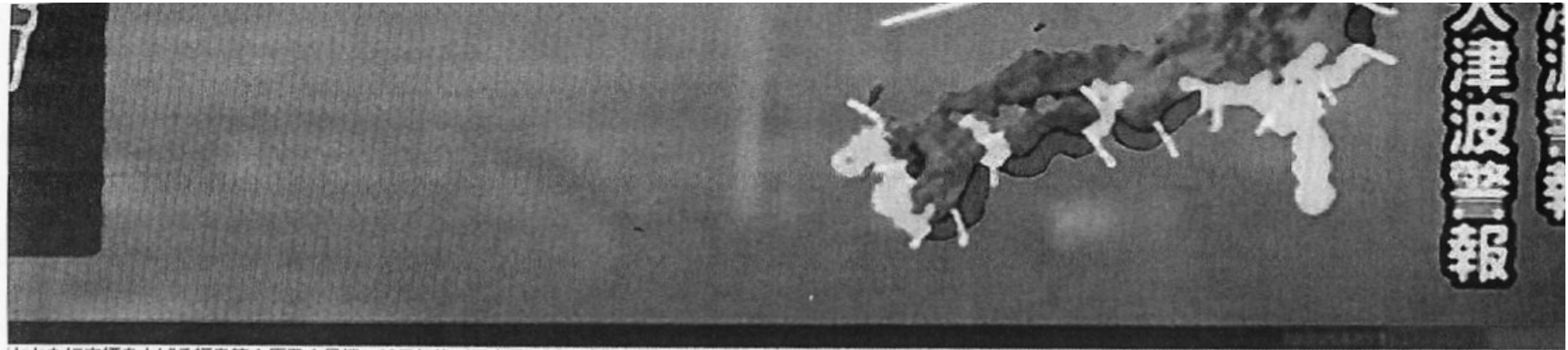
地震関連  
ニュース

東日本大震災の  
被害が拡大する  
恐れがあります。  
ご心配ください。

東日本大震災の  
被害が拡大する  
恐れがあります。  
ご心配ください。

東日本大震災の  
被害が拡大する  
恐れがあります。  
ご心配ください。

# 2011年3月12日 (13日朝刊)



とともに白煙を上げる福島第1原発1号機=12日午後 (日本テレビの映像より)

## 原発爆発

# 信頼、一気に失う

## 厳しい検証必要

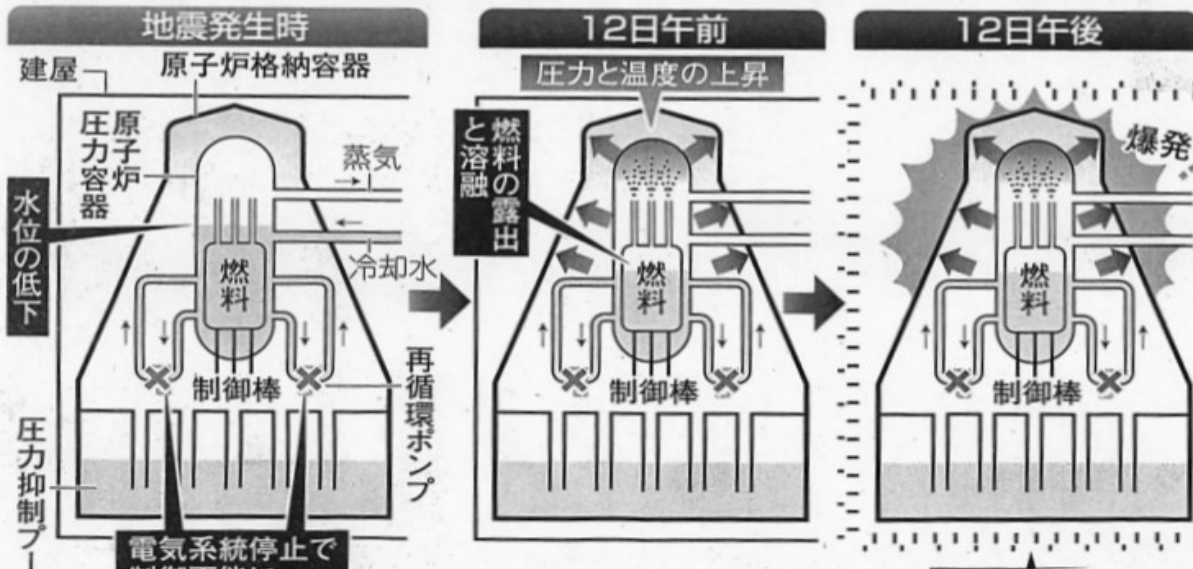
### 解説

超級の原発事故。国民の原子力への不信、不安を一気に募らせ、原発は当分、立ち直りができなくなる。エネルギー安定供給と地球温暖化対策を掲げ、世界的に原発推進の動きが活発になっている。建設、運転、保守管理までパッケージで新興国に売り込む「国際展開」を日本は官民一体で進める。

原発の受注に成功したベトナムや受注が期待されるトルコなど、経済産業省が強力に商戦を後押しする。民間企業の旗振り役は東京電力。自ら海外進出に積極的だが、取り返しの付かない事故を起こした。巨大な揺れと津波が襲ったとはいえ、地震国で原発を造れば被災時、安全装置を動かす外部からの電力が受けられなくなる可能性があることは「想定内」のはず。対応策は当然取られている。電に緩みや死傷はなかったか。厳しい検証が必要。

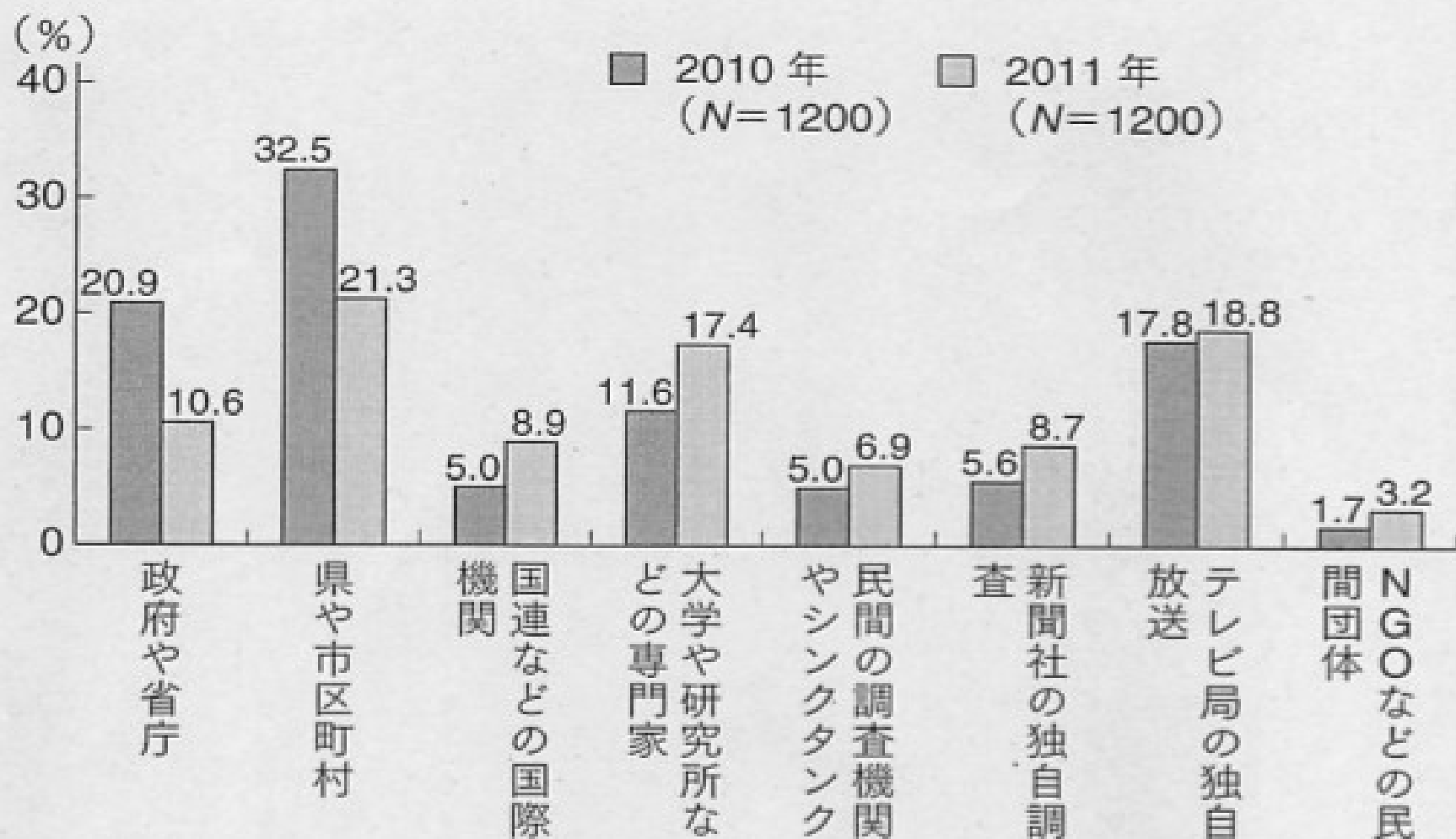
周辺住民に影響が及んだ原子力事故では、作業員が被ばくし、二人が亡くなった一九九九年のJCOウラン再転換工場(茨城県東海村)での臨界事故の記憶が鮮明だ。ただ、JCOは市街地にある町工場だったが、今回は原子力の主役の発電所

での事故。それも要である原子炉が制御不能になった。極めて深刻な事態だ。東電はJCO事故をどう評価していたか。「原発は五重の壁を設けるなど何重にも安全対策がとられている。JCOのような事故は原発で起こることはない」(同社冊子)。しかし、重大事故は起こし、稼働率向上の追い風は厳しに一変した。(科学部・梶)



信頼を失ったのは？

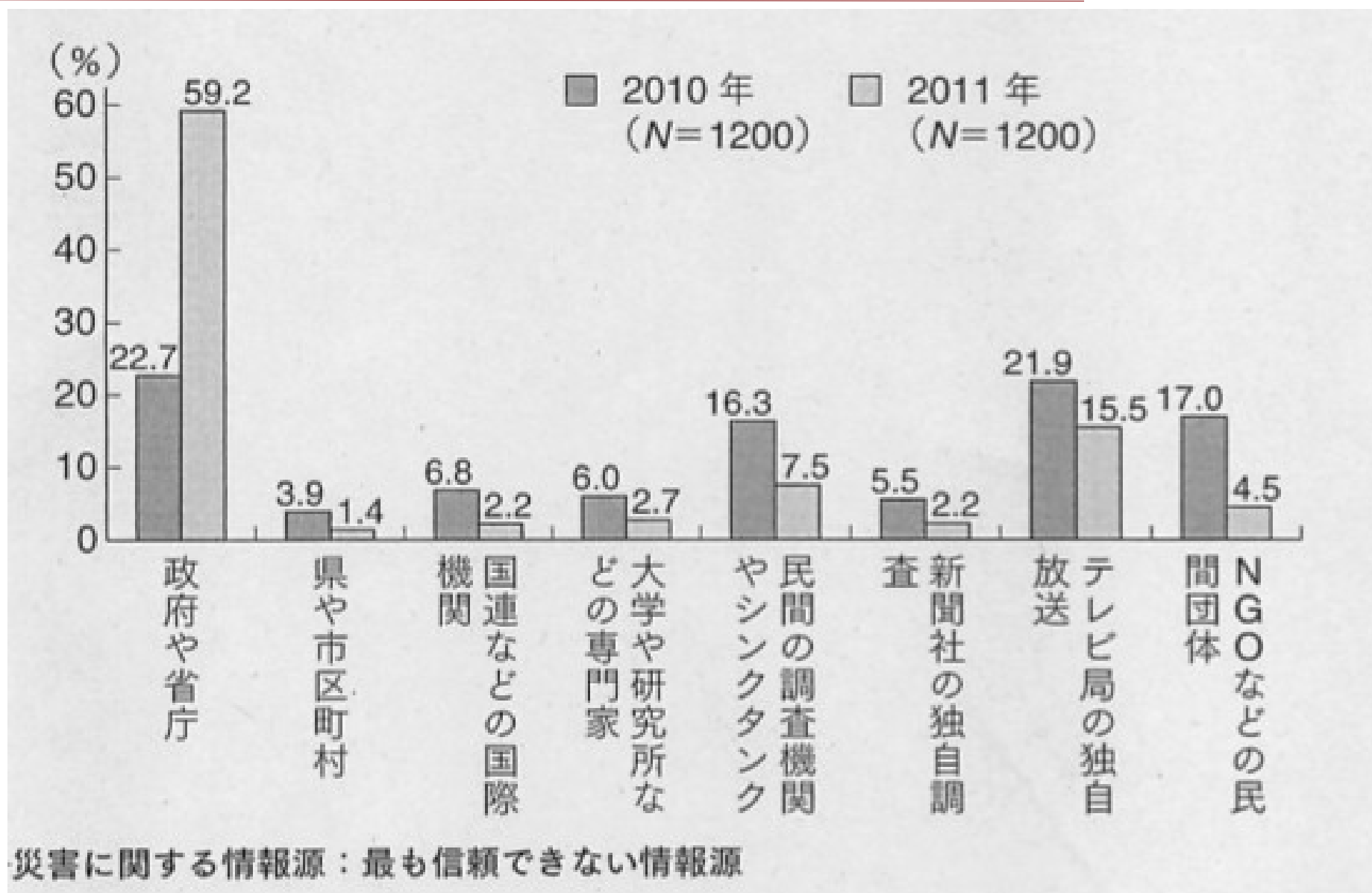
# 最も信頼できる情報源



災害に関する情報源：最も信頼できる情報源

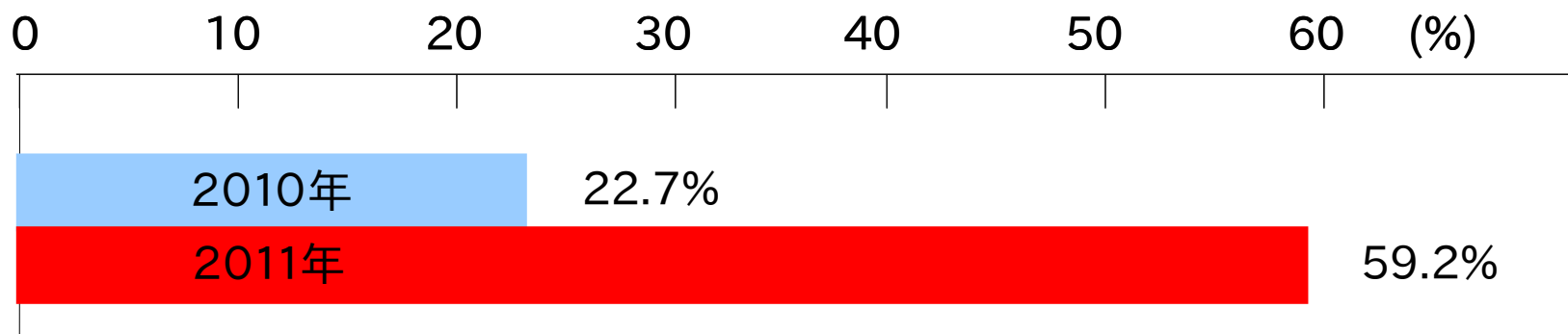


# 最も信頼できない情報源

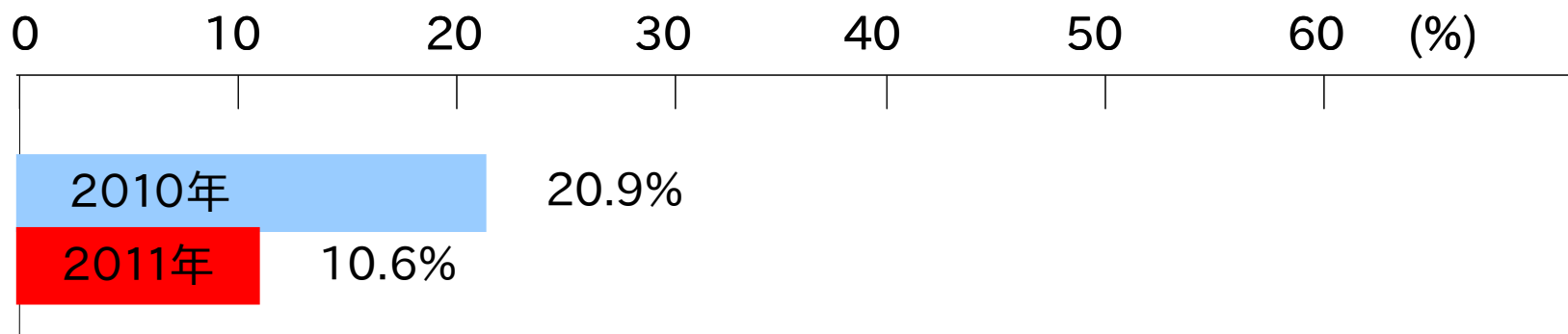


# 情報源としての政府や省庁

政府や省庁は情報源として最も信頼できない



政府や省庁は情報源として最も信頼できる



信頼を失ったのは  
圧倒的に政府や省庁

# 信頼をめぐる状況

---

- では、どうすればよいのか？ に答えるために・・・
  - **そもそも信頼って？**
  - 政府と省庁が、2011年（原発事故後）に、かくも圧倒的に信頼を失ったのはなぜ？

# そもそも信頼って

---

- 単純化して言うと・・・
  - Credibility: 情報や情報源の適切性・真実性などの度合い
  - Reliability: 情報や情報源の状況における適切性・有効性が見込める度合い
  - Trust: 情報や情報源に対し、適切性・真実性・有効性などに基づき受け手が抱く信頼
  - Faith: 情報や情報源に対して(しばしば根拠なく)受け手が持つ信奉

これだと情報のやりとりからしか見てないことになりますが、ここから「相互作用」としてのコミュニケーションもちょっと頭に置いて

「信頼」を確保するための必要条件は？

# Credibility/Reliabilityの条件 Trustの側

- 情報・メッセージ・行動において:
  - 共時的的一貫性
  - 通時的的一貫性
  - 包括性・体系性
  - 現実との合致性 など
- 情報源として:
  - 位置づけの適切性
  - 状況への介入の適切性

← 予測可能性

← 役割の妥当性

# 信頼をめぐる状況

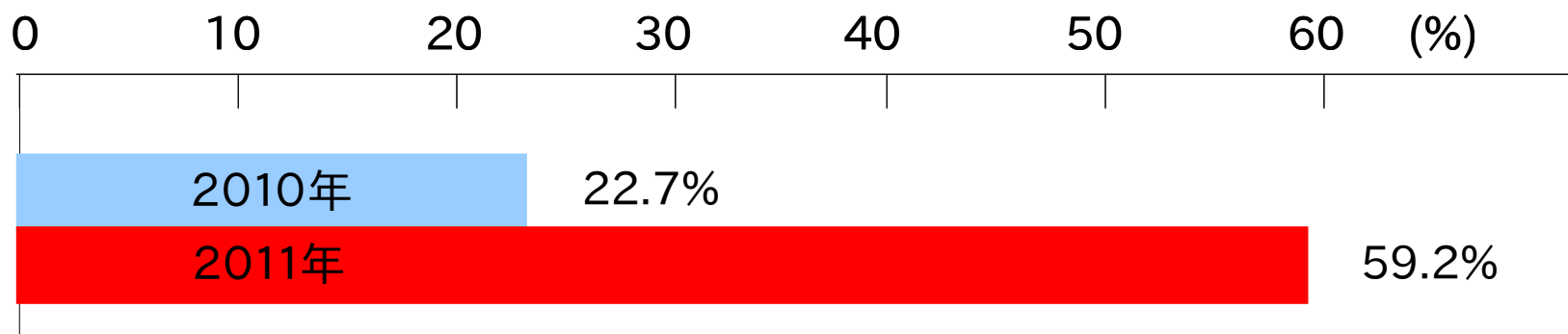
---

- では、どうすればよいのか？ に答えるために・・・
  - そもそも信頼って？
  - 政府と省庁が、2011年（原発事故後）に、かくも圧倒的に信頼を失ったのはなぜ？

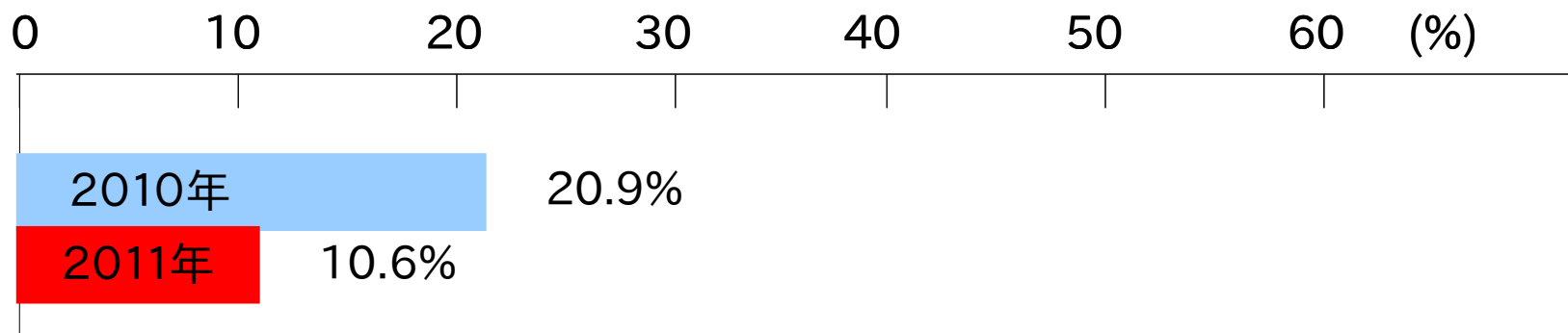


# 情報源としての政府や省庁

政府や省庁は情報源として**最も信頼できない**



政府や省庁は情報源として**最も信頼できる**



# 信頼喪失の経緯

---

原子力発電所を建てる際は、周囲も含めて詳細な調査を行い、きわめてまれではあるが、予定地に大きな影響を与える恐れのある地震を想定し、それを考慮して重要な施設がこわれなような設計を行っています。その設計がきちんとなされているかどうかを、大きな地震動を模擬できる大きな振動台で実物に近い設備をゆらす加振試験などを行って確かめています。

(チャレンジ!原子力ワールド)



# 信頼喪失の経緯

---

このほか、大きな津波が遠くからおそってきたとしても、発電所の機能がそこなわれないうよう設計しています。さらに、これらの設計は「想定されることよりもさらに十分な余裕を持つ」ようになされています。

(チャレンジ!原子カワールド)



## 信賴喪失の経緯

---

「少なくとも津波に関しては、[1930年代の]塩屋崎沖地震とは全く比べ物にならない非常にでかいものが来ていること・・・それに全く触れられていないのはどうしてなのかということをお聴きしたいんです」

(岡村行信委員・地震等合同WG・09/06)

「貞観の地震について・・・被害がそれほど見当たらないということがあると思います。あと、規模としては・・・塩屋崎沖地震でマグニチュード7.9相当ということになるわけですが、・・・こういったことで検討することで問題ないかと考えてございます」

(東電・西村功氏・同WG)

# 信賴喪失の経緯

---

「万一、人体に影響が及びかねない数値が出た場合でも、ただちに公表できるように態勢を整えている」という。

(東日本大震災:環境省の樋高政務官、原発事故めぐり「デマに惑わされないで」  
神奈川新聞・11/03/16)

福島県浪江町赤宇木地区。文部科学省などが福島第一原発から半径二十キロ圏外で放射線量を測定している地点のうち、突出して高い値を示しているにもかかわらず、その地名は一カ月間も伏せられた。

(東京新聞・11/07/06)

# 信頼喪失の経緯

---

「しっかりと厳しい規制値の数値であるが、よりきめの細かい指定や解除を行うことで、逆に指定を受けていない農作物については安全だということを消費者のみなさんに感じて頂き・・・」

(「枝野官房長官の会見全文」朝日新聞・11/04/04)

2011年8月24日、横浜市は国の暫定規制値500Bq/kgを上回る放射性セシウムの検出された牛肉24.4キロが市立小学校の学校給食に使われていたと発表。

# 信頼喪失の経緯

---

「しっかりと厳しい規制値の数値であるが、よりきめの細かい指定や解除を行うことで、逆に指定を受けていない農作物については安全だということを消費者のみなさんに感じて頂き・・・」

(「枝野官房長官の会見全文」朝日新聞・11/04/04)

ガンや遺伝的影響は非常に低い被ばく線量からその障害がおきる可能性があるわけですから、できるかぎり無用な被ばくを避けることは大切なことです。

(高エネ研・放射線科学センター)

# 信賴喪失の経緯

---

ガンや遺伝的影響は非常に低い被ばく線量からその障害がおきる可能性があるわけですから、できるかぎり無用な被ばくを避けることは大切なことです。

(高エネ研・放射線科学センター)

県原子力安全対策課によると、検出された濃度のホウレンソウを、日本人の平均的な年間摂取量で1年間食べ続けても、被曝量は胸部CTスキャン検査1回分の3分の1程度。「人体に影響を及ぼす程度ではない」という。

(朝日新聞・11/03/20)



# 信頼喪失の経緯

---

ガンや遺伝的影響は非常に低い被ばく線量からその障害がおきる可能性があるわけですから、できるかぎり無用な被ばくを避けることは大切なことです。

(高エネ研・放射線科学センター)

雨水の中から、自然界にもともと存在する放射線量よりは高い数値が検出される可能性はありますが、健康には何ら影響の無いレベルの、極めて微量のものであり、「心配ない範囲内である」という点では普段と同じです。

(「東北・関東の方へ」 官邸サイト・11/03/20)

# 信頼喪失の経緯

---

雨水の中から、自然界にもともと存在する放射線量よりは高い数値が検出される可能性はありますが、健康には何ら影響の無いレベルの、極めて微量のものであり、「心配ない範囲内である」という点では普段と同じです。

(「東北・関東の方へ」 官邸サイト・11/03/20)

福島県浪江町赤宇木地区。文部科学省などが福島第一原発から半径二十キロ圏外で放射線量を測定している地点のうち、突出して高い値を示しているにもかかわらず、その地名は一カ月間も伏せられた。

(東京新聞・11/07/06)

# 信頼喪失の経緯

---

IAEAは2011年3月30日、福島県飯舘村を避難勧告の対象にするよう日本政府に呼びかけた。

- ▶ 政府は4月22日、福島県飯舘村を計画的避難区域に指定。

枝野幸男官房長官は31日午前の記者会見で、国際原子力機関（IAEA）が……避難勧告を出すよう日本政府に伝えたことについて「現状ではそうした状況ではない」と述べ、直ちに避難指示を出す必要はないとの認識を示した。

（時事・11/03/31）

# 信頼喪失の経緯

---

児童生徒等の受ける線量が年間20ミリシーベルトを超えないこと

(「福島県内の学校等の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方」 文部科学省・11/04/19)

一般公衆の線量限度：放射線を扱う工場や事業所等の境界外および監視区域外での放射線量は、年間1ミリシーベルト以下と定められています。

(文部科学省パンフレット『放射線と安全確保』・2009年)

# 信賴喪失の経緯

---

児童生徒等の受ける線量が年間20ミリシーベルトを超えないこと

(「福島県内の学校等の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方」 文部科学省・11/04/19)

すべて国民は、法の下に平等であって、人種、心情、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的または社会的関係において、差別されない

(日本国憲法第14条)

# 信賴喪失の経緯

---

児童生徒等の受ける線量が年間20ミリシーベルトを超えないこと

(「福島県内の学校等の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方」 文部科学省・11/04/19)

我々は、暴露の予防こそが子どもを環境の脅威から守る唯一かつ最も効果的な手段であることを断言する。

(子どもの環境保健に関する8ヶ国の環境リーダーの宣言書=G8マイアミ宣言 1997年)

# 信頼喪失の経緯

---

児童生徒等の受ける線量が年間20ミリシーベルトを超えないこと

(「福島県内の学校等の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方」 文部科学省・11/04/19)

原子力安全・保安院は25日、東京電力福島第一原発で放射線業務従事者でない女性社員2人が、年間限度量の1ミリ・シーベルトを超えて被曝した問題で、同社を文書で厳重注意し、個人線量計の確保など7項目の再発防止を指示した。

(読売新聞・11/05/26)

# 信賴喪失の経緯

---

原子力安全・保安院は25日、東京電力福島第一原発で放射線業務従事者でない女性社員2人が、年間限度量の1ミリシーベルトを超えて被曝した問題で、同社を文書で厳重注意し、個人線量計の確保など7項目の再発防止を指示した。

(読売新聞・11/05/26)

柏市の・・・線量は、高いところでも1時間当たり0.5uSvくらいです。この環境に24時間ずっといた場合・・・年間の被ばく量は5～6ミリシーベルトになります。屋内の線量は・・・ずっと低くなるため、実際の被ばく量は、この値よりかなり低くなります。小さなお子さんでも普通に遊ばせてよいと思います。

(毎日新聞・11/07/03)



# 信頼喪失の経緯

---

柏市の・・・線量は、高いところでも1時間当たり0.5uSvくらいです。この環境に24時間ずっといた場合・・・年間の被ばく量は5～6ミリシーベルトになります。屋内の線量は・・・ずっと低くなるため、実際の被ばく量は、この値よりかなり低くなります。小さなお子さんでも普通に遊ばせてよいと思います。

(毎日新聞・11/07/03)

放射線管理区域:人が放射線の不必要な被曝を防ぐため、放射線量が一定以上ある場所を明確に区域し人の不必要な立ち入りを防止するために設けられる区域。

実効線量:1.3mSv/3カ月  
etc.

# 信頼喪失の経緯

---

「水産物への『濃縮・蓄積  
はほとんどなし』 水産  
庁が説明会」

(産経新聞・11/03/29)

魚も出荷停止へ

茨城沖のコウナゴ、高濃  
度ヨウ素検出で

(朝日新聞・11/04/05)

# 信頼喪失の経緯

---

福島県産コメ安全宣言  
(福島県・11/10/12)

福島県大波地区のコメから、暫定規制値を超える放射性セシウム検出  
(11/11/18)

- 福島県は、農林水産省が示した検査方法よりも多くの検体を検査していた

# 信頼喪失の経緯

---

千葉県の柏、松戸、流山と、埼玉県の三郷の計4市で・・・「ホットスポット」が発生しているといううわさが・・・広がっている。

文部科学省原子力災害対策支援本部は「千葉と埼玉で観測されている数値は平常値と変わらない」としており、日本データ通信協会迷惑メール相談センターは「公的機関や報道機関などの根拠ある情報を確認してほしい」と注意を呼びかけている。

(読売・11/05/16)

文部科学省は29日、・・・作製を進めている汚染マップのうち、千葉県と埼玉県分を公表した。・・・柏、流山、我孫子、松戸市にまたがる10平方キロほどの一帯で、セシウム134と137を合わせると・・・1平方メートルあたり6万～10万ベクレルが測定された。・・・

柏市は、周辺よりも放射線量が高い「ホットスポット」と指摘されており、土壌のセシウム沈着量でも確認された。

(毎日・11/09/30)

# 信頼喪失の経緯

---

「福島原発事故のような状況に至らせない対策が講じられている」

(2012年1月18日、東電が提出した柏崎刈羽原発の「ストレステスト」結果に対する原子力安全・保安院の言葉)

「歴代の規制当局及び東電経営陣が、それぞれ意図的な先送り、不作為、あるいは自己の組織に都合の良い判断を行うことによって、安全対策が取られないまま3.11を迎えたことで発生した」

(国会事故調報告書要約版)

- ▶ 安全・保安院は「福島原発事故のような状態に至らせた」要因の一部

# 信頼とコミュニケーションの現状

---

## Credibilityとreliabilityの条件

- 情報・メッセージ・対応において:
  - ~~共時的的一貫性~~
  - ~~通時的的一貫性~~
  - ~~包括性・体系性~~
  - ~~現実との合致性~~
- 情報源（コミュニケーションの参加者）として:
  - ~~位置づけの適切性~~
  - ~~状況への介入の適切性~~

# 信頼とコミュニケーションの現状

---

参加者の「位置づけの適切性」に関する補足：

- 例えば、一貫性の欠如は、コミュニケーション参加者の捉え方にも関係している：
  - ▶ 個々人を考えるか、集団を想定するか

# 信頼とコミュニケーションの現状

---

- 失われたのは、何よりも、政府や省庁のcredibilityとreliability
- 失われたのは、メッセージの内容に対する信頼ではなく／にとどまらず
  - 政府や省庁そのものへの信頼
  - 信頼を確保するために必要な条件そのもの（これは他の情報源の「信頼性」へも波及）



# コミュニケーションをめぐる基本的な問い

---

圧倒的に信頼されない情報源／参加者が、信頼を確保する条件を自ら喪失したからこそ圧倒的に信頼されなくなっている中で、コミュニケーションにおいて相手の信頼を得ることは(したがって最低限のコミュニケーションを成立させることは)、

- メッセージ／情報の「正しさ」によって可能か？
- 説得技術の改善によって可能か？

# コミュニケーションをめぐる基本的な問い

---

圧倒的に信頼されない情報源／参加者が、信頼を確保する条件を自ら喪失したからこそ圧倒的に信頼されなくなっている中で、コミュニケーションにおいて相手の信頼を得ることは(したがって最低限のコミュニケーションを成立させることは)、

- メッセージ／情報の「正しさ」によって可能か？
  - 説得技術の改善によって可能か？
- いずれによっても、できません。

# 信頼とコミュニケーションの現状

---

- 市民が政府や省庁に対するtrustを喪失したのは、政府や省庁のcredibilityとreliabilityが(これまで見てきたように、失われるべくして)失われたため。
- 政府や省庁が自らのcredibilityとreliabilityを回復しない限り、市民の側のtrustは回復しない。
- credibilityとreliability回復の問題は、第一義的には、政府と省庁の振舞いの問題である。
- 政府と省庁の振舞いの変更を前提とせずに「コミュニケーション」によって市民の信頼を回復しようとするならば、それはtrustの回復ではなく、無根拠のfaithを求めるだけになる。

# 信頼とコミュニケーションの現状

---

- つまり…
  - コミュニケーションを通して信頼 (trust) を回復する、のではなく、
  - コミュニケーションを成立させるための前提として、信頼 (credibility/reliability) の回復を可能にするような対応が、それを失った側 (政府や省庁) に必要
- 「絶対安全」と言っていた原発が事故を起こしたことが大元にあるのだから、当然といえば当然。

# お話しすること

---

- コミュニケーション
- 信頼とコミュニケーションの現状
- コミュニケーションの成立条件を再構築する

# 成立条件の再構築：共有されている出発点

---

- 細野大臣（第一回懇談会）：

こういう事故を起こしてしまっていて放射性物質をばらまいてしまっている以上、それに対する責任があるということは明確に言わなくてはならない。今、福島の方々が直面しておられるリスクは選択したリスクではなく、選択していないにもかかわらず被ってしまっているリスクだということは明確に言わなくてはならない。それに対して我々は、開き直すことは許されない……。

# まず、不適切かつ上手く行かないこと

---

- 住民を説得することで、住民の「不安」を解消しようとする事（「我々は大丈夫だと考えていて、その考えを信じていただ」く（細野大臣・第一回懇談会））
  - 「大丈夫だと考えていない」住民にとっては、事故に「対する責任がある」側が「大丈夫だと考えていて」ということ自体が開き直り（cf. 「開き直り」は「許されない」こと（細野大臣・第一回懇談会））と映る
  - 問題を「大丈夫だと思えない」住民の「不安」（心の問題）として捉えるのは、「事故を起こしてしまっって放射性物質をばらまいてしまっっている」こと「に対する責任」を回避することに相当してしまっう

# まず、不適切かつ上手く行かないこと

---

- 住民を説得することで、住民の「不安」を解消しようとする事（「我々は大丈夫だと考えていて、その考えを信じていただ」く（細野大臣・第一回懇談会））
  - credibility/reliability回復の条件を整えずに相手のtrustを回復することはできないし、コミュニケーションとしてそれはうまくいかない（信頼を失った参加者がメッセージの内容やコミュニケーションの技術によって信頼を回復することは本質的にはできない）



# まず、不適切かつ上手く行かないこと

---

- 住民を説得することで、住民の「不安」を解消しようとする事（「我々は大丈夫だと考えていて、その考えを信じていただ」く（細野大臣・第一回懇談会））
  - 「相手が激しい感情を爆発」させても、「ストレスがあるのだから当たり前」（島田委員・第二回懇談会資料）だし、「ストレス」（そして不安）は「現在の状況において当然のものである」（第二回懇談会での質疑における島田委員の御見解）
  - すなわち、不安は状況が生み出すものなので、状況を変えないままに住民を説得することは困難

# まず、不適切かつ上手く行かないこと

---

つまり、事故と汚染に「対する責任がある」側が「原子力被災者等とのコミュニケーションにかかる」問題を、

「我々は大丈夫だと考えていて、その考えを信じていた」くためにコミュニケーションをどうすればよいか、

というかたちで定義するのは、

- 問題定義そのものが不適切
- コミュニケーションの成立条件を満足できない

# まず、不適切かつ上手く行かないこと

---

あくまでこれを進めると：

- 本質的には「不安」は解消されないままで
- 「あきらめ」および／あるいは「不満」が醸成される

# まず、不適切かつ上手く行かないこと

---

残念ながら、同様の問題定義は他にも見られます：

- 『福島復興再生特別措置法案（仮称）について検討中の項目（2012年1月8日）』
  - 「広報活動による不安の解消」
    - 「不安の解消」のための「広報活動」により、不安は解消されないばかりか、不満も醸成される

# 成立条件の再構築：信頼の回復

---

## Credibilityとreliabilityの条件

- 情報・メッセージ・対応において：
  - 共時的的一貫性
  - 通時的的一貫性
  - 包括性・体系性
  - 現実との合致性
- 情報源（コミュニケーションの参加者）として：
  - 位置づけの適切性
  - 状況への介入の適切性

# 成立条件の再構築: 具体的な状況の変更

---

- 信頼を回復するためには、
    - 具体的な参加者の配置と環境の配置の変更を前提とするとともに、
    - 具体的な参加者の配置と環境の配置の変更を帰結する
- 必要がある。

以下はあくまでコミュニケーションの  
成立条件の側から見た、ここまでの  
議論の流れに対応するお話しなので  
政策的対応の観点からは断片的ですし  
担当省庁の違いも考えていません

# コミュニケーションの成立条件

---

## 一貫性(+予測可能性)

- 事実として、福島県のかなりの地域が高線量
- 子どもは放射線に対する感受性が高い
  - 法の下での平等
  - マイアミ宣言
  - 一般公衆の線量限度／放射線管理区域 etc.



# コミュニケーションの成立条件

---

## 一貫性(+予測可能性)

- 一般公衆の追加被曝限度：年間1mSv

「しかし、少なくとも、事故前に長い時間をかけて、公衆の年間の被曝限度を1mSv以下とすることで、日本国内の一定の合意を形成して原子力事業を行ってきたのであるから、その限界を事故が起こったからといって、十分な議論なしに変えることは許されないというべきである」(日置雅晴・早大教授・日弁連原子力PTメンバー)

# コミュニケーションの成立条件

---

## 一貫性(+予測可能性)

- 一般公衆の追加被曝限度：年間1mSv

文科省も、福島県の学校20mSvに対する反対の声を受けて、「1mSvをめざす」と姿勢を変更(社会的な合意はここ)

# コミュニケーションの成立条件

---

## 一貫性(+予測可能性)

- 避難の権利(具体的な補償とともに)
- 住みつつける場合の配慮
  - 社会的に合意された基準に基づく具体的な「安全」確保と将来像の共有へ向けた手立て
    - 給食・遊び場の確保・保養 etc.

# コミュニケーションの成立条件

---

## 包括性・体系性／現実との合致性（＋予測可能性）

- 検査でOKの宣言が出た後で基準値超えのものが見つかる例
- 一般的な「科学的知見」をもって説得することと、具体的な状況を把握して対応することとの乖離
  - 「生活空間の放射線測定 基礎知識」の作成について（お知らせ）（環境省）

# コミュニケーションの成立条件

---

包括性・体系性／現実との合致性（＋予測可能性）

- 細かいメッシュで体系的・継続的な測定
- 広範囲の体系的測定を促す行政のサポート
- 上流からの農産物等管理
- 市民による主体的なinformed decisionに必要な具体的な情報提供
- 農産物等の被害の詳細なトレースに基づく補償

# コミュニケーションの成立条件

---

包括性・体系性／現実との合致性（＋予測可能性）

- 包括的な健康調査
- 住民がセカンドオピニオン・サードオピニオンを得る体制の体系的サポート
- 当事者への全面的な情報提供に基づく健康管理体制の構築

# コミュニケーションの成立条件

---

位置／介入の適切性（＋想定される役割の充足）

- 補償／賠償 vs/+ 支援
- not 広報・説得 but 情報提供・情報に基づく住民の意思決定とそれに対する補償／賠償＋支援
- 「最大公約数」・「代表」ではなく、すべての対応について、一人一人を対象に
- 参加者の役割：評価されるべきは政府・行政の対応、評価するのは住民

# 個別の努力としては、成立している

---

- 坪倉先生の実践：
  - 対話を繰り返す、書類通知ではだめ、今後の生活ではどうすればよいか見えた点で相手はある程度納得
    - ←個人レベルで「一貫性」を維持し信頼を構築
    - ←「情報伝達」ではなく「具体的状況の変更」としてのコミュニケーション



# 個別の努力としては、成立している

---

- 坪倉先生の実践：
  - 人々が気にしているのは、例えば孫が遊びに来たときに裏山に連れて行って良いか、自宅で採れたこの野菜は食べてよいかという、極めて具体的なこと。
    - ←「放射線に関する一般的知見」ではなく「具体的な汚染状況」を扱うことにより、生活の場での「包括性・体系性」を実現、相手の「予測可能性」を満たす

# 個別の努力としては、成立している

---

- 問題は・・・
  - 個別の努力は、圧倒的に人が足りない(1000人、1万人の「坪倉先生」が必要)
- 政府・行政レベルでの対応が必要

## もう一度、共有されている出発点

---

- 細野大臣（第一回懇談会）：

こういう事故を起こしてしまっていて放射性物質をばらまいてしまっている以上、**それに対する責任がある**ということは明確に言わなくてはならない。今、福島ของ皆さんが直面しておられるリスクは選択したリスクではなく、選択していないにもかかわらず被ってしまっているリスクだということは明確に言わなくてはならない。それに対して**我々は、開き直すことは許されない**……。

# 政府・行政レベルでの対応

---

- 「福島復興再生特別措置法」
- 「原発事故子ども・被災者支援法」
  - 開き直らずに責任を果たすのは政府
  - 評価と要望と苦情を要求するは被害者・被災者
  - 現状では十分とは言い難いことが、「コミュニケーション」をめぐる根本的かつ最大の問題

## おわりに

---

- 本来の意味でのコミュニケーションには、参加者の配置や環境の配置の変更も伴う（また場合によってそれを前提とする）
  - 決められたアジェンダを説得する技術は、「コミュニケーション」とは別もの
- まず、「コミュニケーション」の成立を可能にする政策を全面的に展開することが必要

ありがとうございました